

VOL. 132

ウクライナ：
人道支援事業

トンガ：
噴火・津波被災者支援事業

フィリピン：
台風被災者支援事業

世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985 2022

News 6



平穏な生活を
奪われてしまった
ウクライナの方々に
人道支援を

ウクライナ・キーウ州 ADRAの支援ボックスには1箱14kgの食料と衛生用品が入っており2人家族なら4週間、生活をつなぐことができる



※今号のADRA Newsは公益財団法人ウェスレー財団様の助成を受けて発行しております。

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。



UKRAINE ウクライナ

人道支援事業

→ p.4-5



ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援事業

教育支援に取り組んでいるジンバブエでは、地域住民に対する教育啓発にも取り組んでいます。就労などを理由に子どもを学校に通わせていない保護者に、教育の重要性を学べるイベントへ参加して寸劇を見てもらったり、学校関係者と教育啓発ボランティアによる家庭訪問を受け入れてもらったりする事で、就学率の向上を目指しています。



子どもたちの寸劇による教育啓発

- ADRA Japan 実施事業
- 世界のADRA支部がある国と地域



AFGHANISTAN アフガニスタン

バーミヤン県における教育環境改善事業

アフガニスタンでは昨年8月以降、政情が不安定になっていますが、低学年の子どもたちは男女とも学校に通える日常を取り戻しつつあります。ADRAは以前より続けてきた教育支援をできる限り継続しています。現在、厳しい冬が明けたバーミヤン県にて、学校の校舎建設完成に向けて活動を再開しました。子どもたちも校舎が完成するのを待っています。



校舎が完成するのを心待ちにしている子どもたち



ETHIOPIA エチオピア (南スーダン難民支援)

ガンベラ州のクレ 難民キャンプにおける衛生事業

ADRAは約45,000人の南スーダン難民が暮らすクレ 難民キャンプで、衛生環境の悪化を防ぐための活動に取り組んでいます。昨年8月から4月までに55名の難民の方にトイレ建設技能研修を行い、トイレを55基、学校の手洗い場を7基設置、衛生啓発活動は180回以上開催することができました。難民キャンプ内では感染症蔓延の危険とは今もまだ隣り合わせであるため、引き続き同様の活動に取り組んでまいります。



枯草を使ってトイレの屋根を完成させた難民キャンプの女性

NEPAL ネパール

教育支援〈ナマステ基金〉事業

ネパールの教育水準は高まっていますが、経済的な理由により取り残されている子どもたちがいます。ADRAは、スポンサーの皆さまの温かいご支援のもと、支援がなければ学校を辞めざるを得なくなる子どもたち66人のサポートを継続しています。



将来の夢に向かって勉強に励む子どもたち

MYANMAR ミャンマー

教育および緊急支援事業

ミャンマーでは昨年2月から不安定な社会情勢が続いています。命を守ることが難しくなっている地域も多く、今年5月の時点で93万人が住み慣れた家を離れ、ジャングルや洞窟の中などで避難生活を送っています。ADRAは現在の状況の中、支援物資の配付など、できる支援に取り組んでいます。



ADRA Japan

JAPAN 日本

福島県沖地震被災者支援

今年3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震で、福島県と宮城県を中心に被害がありました。ADRAは、支援を必要としても声をあげることをためらってしまう方々に寄り添うため、以前から繋がりのある宮城県山元町で感染対策をとりながら、足湯を提供しています。



山元町8か所の地区で足湯を実施

PHILIPPINES フィリピン

台風被災者支援事業 → p.6



TONGA トンガ

噴火・津波被災者支援事業

→ p.6

VIETNAM ベトナム

異文化の中で働く難しさを緩和し、家族を支える働き世代をサポートする労使関係改善のための文化的教育事業

日本で働くベトナム人が数十万人いる中で、多くの労使問題などが発生しています。現在日本で働く、働いたことのある、またこれから働く予定のベトナム人と受け入れ先の企業に意識調査を行い、収集したデータをもとにハンドブックを作成しています。少しでもこの労使問題が軽減されるよう、作業を進めていきます。

ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています (以下敬称略)。

- 日本NGO連携無償資金協力 (ジンバブエ、アフガニスタン、ミャンマー)
- 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (エチオピア、フィリピン)
- 公益財団法人イオンワンバースセントクラブ (ミャンマー)
- 公益財団法人トヨタ財団 (ベトナム)

● ADRA International (世界本部)

ADRA JAPANの活動

UKRAINE ウクライナ

人道支援事業

平穏な生活を奪われてしまった ウクライナの方々に 人道支援を届けています



避難生活を続ける子どもにはおもちゃなど笑顔が戻るギフトが入った支援ボックスを配付

ソ連時代にはロシアに次ぐ大国であり、ロシアと緊密な関係をもっていました。

しかし、2014年ごろからウクライナとロシアの情勢は不安定な状態となり、2022年2月24日以降は、ウクライナ国内で人々が命を守るのが難しくなるほど情勢が悪化しています。平穏な生活を奪われてしまったウクライナの方は増える一方で、2022年5月24日の時点で約1,460万人、ウクライナ国民のおよそ3人に1人は住み慣れた家を離れ、国内外で避難生活を強いられています。

昼夜問わず空襲警報が鳴り響く中、地下シェルターに避難したまま出ることができなくなってしまったり、水や食料、電気・ガス、休む場所など、命をつないでいくのに必要なものが十分に手に入られなかったり、より安全な地域に移動したくても、移動手段や連絡手段がなかったりと、情勢悪化から約3か月以上が経つ今も人々

は先が見えない生活をしています。また、大人も子どもも心に負担がかかっている方が多く、心のケアも必要とされています。そのほか、公的な場所では病院の損傷や医療資材の不足、学校などの被害も深刻です。

ADRAは1993年からウクライナ国内で活動していた実績と、世界約120か国以上にネットワークを持つ強みを生かし、ウクライナ国内70か所以上の市町において10万人以上の方に水や食料、危険な地域からの避難などの支援を届けています。そしてウクライナ周辺国のポーランド、ルーマニア、ハンガリー、スロバキア、モルドバにおいても、一人ひとりの状況に寄り添った支援に取り組んでいます。

医薬品が足りない病院などには医療用手袋や消毒液、止血帯などの医療資材を届け、避難所が足りない地域では、協力団体の施設など避難所となりうる場所を確保し、



左上/危険な地域からの避難支援。安堵の表情を見せながらバスに乗り込む親子 左下/避難所では子どもが子どもらしく過ごせる場所や時間を確保し心のケアにつなげている



ウクライナ国内の支援実績

- パン: 1,264,000個
- 食料: 150,000トン以上
- 水 (6L): 3,456本
- ドネツク州近くへの給水支援: 12,000リットル
- 衛生用品: 852セット
- 現金給付: 16,000人以上
- 激戦地からの避難: 10,000人以上

青空を見上げる喜び。

～危険地域のハルキウからの避難

アリーナさん(仮名)は、戦禍の激しいウクライナ北部ハルキウで、陽の当たらない地下シェルターに避難したまま何日も過ごしていました。というのも、アリーナさんは妊娠中で大きなお腹を抱えており、階段の上り下りが体の負担になっていたからです。空襲警報が鳴ってから急いで避難することに不安があり、まだ小学生の息子と2人、地下シェルターでの避難生活を続けていました。

ADRAの避難支援のことを知ったアリーナさんはすぐに避難を決意します。1日も早く安心できる環境に移動したいと思っていたからです。そして、ADRAのボランティアが運転する車に乗り、安全な地域へ急ぎました。避難先で車を降りたアリーナさんは「ハルキウから避難でき、ここまで送っていただいて感謝いたします。戦地の地下シェルターから脱出して、今はこうしてまた太陽の光を浴びることができてうれしいです」と、眩しうに青空を見上げました。「避難したのは2人ですが、本当は4人です」と双子が宿しているお腹をさすりながら笑うアリーナさんの表情には、安心感もあふれていました。

皆さまの温かいご支援のおかげで、このような支援を届けられることを心より感謝申し上げます。

アリーナさんのメッセージを動画でご覧いただけます。
<https://bit.ly/3NABcuT>



チャンネル登録や
グッドボタンを
お待ちしております



お腹の双子とともに避難でき青空のもとに出られたことを喜ぶアリーナ(仮名)さん

休む場所を必要としている方々には、マットレスなどを搬入して寝泊りできる場所を増やし、温かい食事の提供なども支援してきました。このほかにも、国内各地で被害に合われている方々がADRAに直接支援を求められるホットライン(電話やチャット窓口)の設置、被災した大人や子どもへの心のケア、国外へ退避することもかなわない方々への避難先として住居を提供する活動も実施しています。

これまで本当に多くの皆さまから、多大なるご支援が寄せられ、必要な支援を現地に届けることができています。そして、現場では多くのボランティアの方々の献身的な協力によって活動が支えられています。厳しい状況が続くウクライナですが、一刻も早く事態が収束することを願いながら、今後もADRAはウクライナ国内および周辺国において紛争の影響を受けている一人ひとりに寄り添う支援を続けてまいります。

アドラのチカラ

番外編



いつもADRA Japanの活動にご支援いただき、ありがとうございます。

ADRA Japanは2月24日から始まったウクライナ危機において、翌25日より寄付の呼びかけをしてまいりました。その声に多くの方が応えてくださり、5月中旬現在、延べ226,200人以上の方々から温かいご支援をいただき大変心強く思っております。お陰様でウクライナにおいて多くの分野に渡って支援活動を行っております。今回の「アドラのチカラ」ではご寄付を賜った際にいただいた皆さまからのメッセージをいくつかご紹介いたします。

- 戦禍で平穏な日常を奪われたウクライナの皆さんのためにと思い、わずかばかりではありますが、寄付させて頂きました。お役に立てましたら幸いです。一日も早く戦禍が止み、平和で平穏な日常が戻ることを祈るばかりです。
- ウクライナの子どもたちやお母さんに笑顔が戻りますように。
- このような光景を見たくないです。穏やかな笑顔あふれる平和な日常が戻るよう、願わずにはられません。
- 路上ライブで「ウクライナに平和を」と集めた投げ銭すべて寄付します。よろしくお祈りします。
- ウクライナの主権と領土が確保されつつ、一日も早い戦争の終結を願わずにはられません。
- このような悲惨な戦争が起こっていることに無力さを感じています。少しでも早く戦争が終わりますように・・・。
- とにかく1日も早く戦争が終わり、ウクライナ、ロシア双方の人々が元の平穏な生活に戻れますように。
- 一日も早く子どもたちが安心して暮らせる日常に戻れることを願っています。少額ですが寄付させていただきます。
- 困難な生活者、避難者のために役立ててください。安穏な生活が訪れることを祈っています。

皆さまの平和を願うメッセージと共に、ADRAの支援活動へのご賛同とたくさんのご寄付を賜り、心よりお礼を申し上げます。

TONGA トンガ

「ありがとう!」生活再建のための現金給付に感謝の声

2022年1月15日。海底火山の大噴火の影響を受けたトンガでは、人口の84%にあたる84,800人が被害を受け、食料、生計確保、住まい、飲み水や衛生環境の回復のために、支援を必要とする状況となりました。また、噴火前までは新型コロナウイルス感染者数がゼロだったトンガでも、人や物の流れが変わったことによって感染が拡がり、ロックダウンの処置がとられ、人々の生活はますます苦しくなりました。5月現在、1万人以上の感染者が確認されてお

り、支援活動にも影響がでていますが、その状況の中でも、ADRAは人々に寄り添う支援を続けています。特に、生活を支える現金給付支援が喜ばれており、支援を手渡した時に、住民の方々の表情にパッと明るい笑顔が広がるのを見ることができます。「私たちのところまで来てくれてありがとう」という感謝の言葉を聞くたびに、必要な支援を必要な時に届ける活動ができていること、そしてその活動を支えてくださる皆さまへの感謝が湧いてきます。今後も現地

の状況に合わせながら、自立した生活を取り戻せる生計回復も視野に入れ、人々に寄り添う支援に取り組んでまいります。



災害の爪痕が残る中、生活を支える現金給付支援は住民に喜ばれている

PHILIPPINES フィリピン

より強い家に! 家屋修復サポート

2021年12月16日にフィリピン中部地域に上陸した超大型台風22号(ライ)は、被災者1,096万人、倒壊家屋197万棟*と



家屋修復トレーニングを受講する参加者

いう史上最悪の被害をもたらしました。ADRAは皆さまからのご支援のもと、緊急支援物資を届けながら調査を行い、他の団体からの支援が届いていなかったネグロス島を中心に支援に取り組んできました。現在は、特に家屋被害が深刻だった200世帯を対象に、「ビルド・バック・ベター(より良い復興)」というアプローチに基づいた家屋修復支援に取り組んでいます。この活動では、もともと自分たちで家を建てる習慣のある方々に、より専門的な建築方法を学んでいただき、壊れてしまった

家を災害に対してより強い家に修復できるようサポートしています。2022年3月から進めてきた家屋修復トレーニングは4月中旬に終わり、4月下旬から各家庭に家屋修復のための資材が届き始めました。資材が届いた世帯は家の土台づくりから進めています。作業が順調に進めば、被災から何か月も不自由な生活を強いられてきた方々も、6月中旬には自分たちの力で復興できたという自信とともに、安心して過ごせる家を取り戻せることになります。温かいご支援を心より感謝いたします。

*政府最終集計値

※この事業は皆さまのご寄付のほか、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームからのご支援も受けて実施しています。



世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で事業を実施しています。数ある事業の中から、活動の一部をご紹介します。

Countries around Ukraine

ウクライナ周辺国(ポーランド・スロバキア・ハンガリー・ルーマニア・モルドバ)



国外へ逃れた方へも寄り添った支援を

ADRAは今回の人道危機が起こる前から、ウクライナからの難民が流出している周辺国で活動していた実績があります。ADRAの設立母体であるセブンスデー・アドベンチスト教会との連携関係も強く、どの国でも数百~数千人のボランティアを動員できる体制を持っています。そのため、難民の流出が始まった直後から、各地で人々に寄り添う支援を迅速に行うことができています。

5月19日の時点で、ウクライナ国外に逃れ難民となった方の数は640万人を超えると報告されている中(※)、ADRAがサポートすることができた人数は、45万人に上っています。

これまで、難民の方々が必要なものを買うための現金の給付、必要とされている擁護や心のケア、一時滞在できる場所と食事の提供、移動のサポート、食料や衛生用品などの物資支援など、それぞれの状況に合わせた多岐にわたる支援を実施しています。国外に逃れた人の中には、ウクライナ国内の情勢が落ち着き次第すぐに帰りたいと考えている方も少なくないため、生活拠点となる場所の調整や、子どもたちの教育再開に関しても支援に動き出しています。

各国では、他の支援団体や企業との連携も進んでおり、スロバキアではヨーロッパ各国に店舗を展開するドイツの企業DEICHMANN(ダイヒマン)社の協力により、スロバキア国内で避難生活を続ける方々に、買い物に使

※UKRAINE REFUGEE SITUATION 2022年5月19日

うことができるチケットの配付支援もスタートしました。一人20ユーロ相当のチケットを手に、新しい靴や靴下、帽子やバッグなどを選ぶ時間は、ひと時でも紛争のつらさを忘れる時間になっています。

また、ADRAウクライナ支部との連携のもと、周辺国からウクライナ国内に残る方への物資も送っており、その量はすでに400トンを超えています。物流が乏しくなっている地域ではこの支援が人々の命綱となっています。

ウクライナ情勢はまだ先が見えず、人々は不安の中に生活していますが、世界から支援が届いていることが支えになっています。温かいご支援を心より感謝申し上げます。

ウクライナ周辺国の活動拠点



スロバキアから届いた支援ボックスを受け取り安堵の表情を見せる女性:ウクライナ・キウ州



スロバキアでのチケット支援

色々な寄付のかたち

ADRA Japanが実施する事業へのご支援は、寄付やボランティア、お知り合いへの活動の紹介など、さまざまな形がございます。また、ご寄付に関しましても、お金でのご協力だけでなく、物品や金券によるご支援も受け付けております。

1 ADRAフレンドとしてのご寄付

マンスリーサポーターとして継続的なご支援をいただくことは、事業の実施において非常に大きな支えとなります。月1,000円からお申込みいただけます。



応援メッセージ

同じ空の下にいながら苦難の中にいらっしゃる方々の為に祈る事しかできませんが、ADRAは支援が届きにくい所にもそのネットワークを生かしていち早く入っていられることをADRA Newsで知り感銘を受けました。私はADRAフレンドとしてほんのわずかなことしかできませんが沢山のフレンズが集まれば大きな力となると期待しています。(伊佐敬子さん/ADRAフレンド)

2 一回ごとのご寄付

郵便振替、クレジットカード、銀行振込等によるご寄付を常時受け付けております。支援を希望される事業のご指定も可能です。

【郵便振替】 口座番号：00290-2-34169 加入者名：(特活)ADRA Japan



3 Tポイントでのご寄付

Yahoo!ネット募金のサイトを通して、Tポイントでのご寄付が可能です。使用予定のないポイントがございましたらぜひご協力ください。



4 物品でのご寄付

お宝エイドの活動を通じた、宝飾類、ブランド品、絵画、古銭、メダル、ブランド食器、カメラ、楽器などの骨董品によるご寄付です。送料無料で、自宅等ご指定の場所へ業者が集荷に伺います。



さまざまな災害や戦争などにより、本当に大変な状況の下におかれている方々に対し、少しでも手助けをと思っても、皆それが具体的に出来ない状態です。そのような中、ADRAは、皆に代わって全世界で助けを必要とする人々に援助をして下さっている大切な働き者の存在ですので、応援しております。

(宇野絹枝さん/定期寄付者)

5 金券等によるご寄付

書き損じハガキ、未使用のハガキや切手、デパートなどの商品券、お米券などの金券によるご寄付です。事務局宛にお送りください。



お問い合わせ先

TEL: 03-5410-0045 E-mail: support_adra@adrajpn.org

いただいたご寄付は税制優遇の対象となります。

ホームページ: <https://www.adrajpn.org/>



ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 132号 2022年6月1日発行

発行人 青木 泰樹
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA_Japan
Instagram: adra_japan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 青木 泰樹(事務局長)
創設年月日 1985年3月30日



ADRA

デザイン: 細山田デザイン事務所